



原稿執筆者  
まちかど特派員

とみ ちみ  
富田 聡美

# 和太鼓の 醍醐味



「ドンドンドンドン！」

土山JA山内支店前の倉から響き渡る力強く迫力ある和太鼓の音色。甲賀市内にもいくつかの和太鼓グループが活動されていますが、私は先日行なわれた土山町山内発祥の「和太鼓六友会」の初心者講習会に参加させていただきました。

「和太鼓六友会」は、花笠太鼓踊りなど太鼓に関わる伝統芸能が多い山内で2003年5月に発足しました。六友というのは、旧山内村に六つの字があったことから名づけられたとのこと。現在大人15名、小中高校生12人で、

地元の敬老会、文化祭、馬子唄大会、斎王群行、夏祭りなどで演奏活動されています。今の稽古場は、JAさんからお借りしているという倉庫で、

中の床張りや椅子は全て手作りされたとか。和太鼓の稽古場としては響きも良く、趣のあるたたずまいで打ってつけの場所です。今回は、京都・大阪から2名の講師の先生をお迎えしての講習会。さぞ緊張しているだろうと思いきや、皆さんあぐらをかき、初めてという方もリラックスモードで楽しそうに力いっぱい太鼓を打っておられました。

そこで私も少し体験させていただきました。一見簡単そうに見えたのですが、やってみると意外と難しい…特に楽譜を見ながら皆と一緒に合わせて打つのはバチ



使いが伴わず、ずれてくる…やはりリズム感と音感、手首の柔軟さと集中力、そして何よりもかなりの体力が必要だと実感しました。反面、あのバチ先から伝わる振動と体を包み込む響きに私も少しハマってしまいそうになりました。」「ちよっと難しかったけど、楽しかった。頑張って続けていきたい。」一年前から始めたという小学一年の廣岡光希くんが感想です。全くの初心者でも構えることなく気軽にすぐ打つことができ、何よりも楽しくてリフレッシュすることができ、私も日頃のストレス解消!?になり気持ちよく汗を流すことができました。

六友会の総括、松岡勝男さんは「特に子どもたちはボ少や部活でなかなか練習時間が持てないが、なるべくメンバーを集め、大きな事は考えず、ずっと地域の伝統芸能として続けていきたい。」と話しておられました。和太鼓の響きは、ストリートに我々日本人の心を打つものだと思います。それは、和太鼓が、山河に囲まれた豊かな自然の中の生活から生まれた伝統芸能であり、土から感じる温かさ、川の流れから感じるおだやかさと激しさ、空から感じる清々しさなど、自然の奥深さが音として表現されるからだと思

います。そして、そんな幽玄な音色を自分なりに身体全体で創造できることが、一つの和太鼓の魅力だと感じました。単純に見えて奥が深い和太鼓ですが、意外と気軽に世代を問わず親しめどどこか土の匂いがあるようなあたたかい響きに心癒されたような気がします。「和太鼓六友会」は毎月曜日夜のJA山内支店前の稽古場で練習されています。メンバーを募っておられるとのことなので、ぜひ一度気楽に、日本古来の懐かしい響きと勇壮なバチさばき、和太鼓の醍醐味を満喫してみてください。

